

大牟田市立白川小学校

1 本校のESDの特徴

本校は大牟田市のほぼ中央部に位置しており、学校のすぐ近くを国道が通り、大型商業施設やマンションが立ち並び、周囲には住宅が密集している。自然環境にふれあう機会は少ないが、学校には、市内で一番広い運動場があり、樹木がたくさんある。さらに、地域には、白川校区に長く住み、住みよい町づくりに取り組む人が多い。

そこで、地域の特色を生かして、「住みよい町づくり」をテーマに、「環境」「福祉」に関わる課題を主に取り上げ、低学年では「生活科」で、3～6年では「総合的な学習の時間」において、次のような点に配慮しながら学習を進めている。

〈生活科〉→地域の人やもの、自然とのつながりを大切にする。

〈総合的な学習の時間〉→「環境」「福祉」という視点から、校区のよさや問題点を見つけ主体的に活動する単元を設定し、「住みよい町づくり」につながるように指導していく。

〈めざす子どもの姿〉

- 現代の社会や自分たちの行動が未来につながっていることを認識する子ども
- 身の回りの人や世界とのつながり、自然環境との関係を尊重する子ども
- 主体的に問題をとらえ、解決していこうとする態度をもつ子ども

2 ユネスコスクールとしての活動・重点単元

テーマ：「住みよい町づくり」

学 年	内 容	教 科	時 期
1 年	「ぐんぐんのびろ・元気に育て」【環境】	生活科	5～9月(13時間)
2 年	「もっと知りたいな町のこと」【環境】	生活科	5～11月(20時間)
3 年	「白川校区じまん隊」【地域連携】	総合的な学習の時間	5～7月(20時間)
	「地域の方に感謝の気持ちを伝えよう」【福祉】	総合的な学習の時間	1月(4時間)
4 年	「伝え合う心」【福祉】	総合的な学習の時間	6月(10時間)
	「敬老会に向けて」【福祉】	総合的な学習の時間	9月(10時間)
5 年	「白川の緑を守ろう！」【環境】	総合的な学習の時間	6～3月(10時間)
6 年	「お年寄りとの交流会をしよう」【福祉】	総合的な学習の時間	9～12月(12時間)
全学年	「お手紙わたし」【福祉】 「年賀状で伝えよう」【福祉】	生活・総合	12月(1時間)

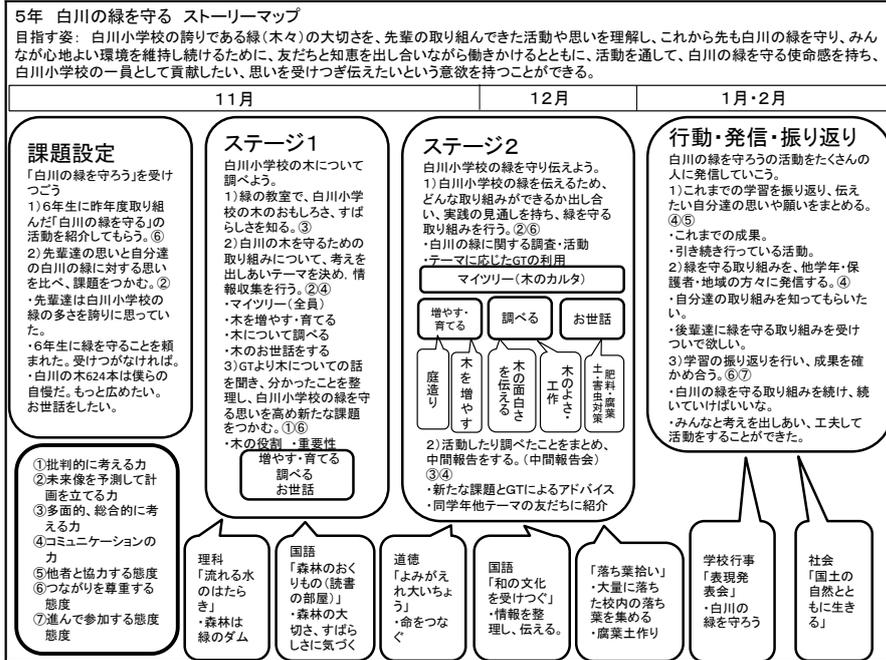
3 特徴的な活動事例

＜5年生 総合的な学習の時間 単元名「白川の緑を守ろう」15時間(11月～2月)＞

(1) 目標

- 校内や校区内の木について調べ、身近な自然に関心を持ち、緑豊かな自然を守るために自分たちができることは何かについて考える。
- 木を調べることで気づいた、自然環境を取り巻く問題やその解決方法、森林の働きについて、調べたことや考えたことをリーフレットや新聞、発表会等で伝える。

(2) 実践の展開



G Tから木の話聞く



「緑の教室」

○成果

- ・「身近な緑」を取り上げ、自分の思いを育むために、3つの「つながり」を大切に活動し、意図的・計画的に仕組んだことは、主体的に学ぶ子どもが育つ上で有効であった。
- ・見通しが立たずどうすればよいか迷った時に、GTの的確なアドバイスを取り入れたことで、自分の課題に対し自信を持って活動し、解決の方向性を見つけ出すことができた。
- ・子どもたちだけでは限られてしまう情報収集が、GTにより多面的に情報収集でき、必要な情報の選択にも役立った。
- ・アクティブラーニングを意識した学習を仕組んだことで、問題解決への見通しをスパイラル的にすすめることができた。
- ・人と「つながり」ながら、自分の思いを、「一人で」「グループで」「全員で」「GTの方と一緒に」と様々な形態を取り入れたことにより、「自分にもこれならできる」と主体的に自己選択をしたり、活動したりする姿が出てきた。

○課題

- ・今後、調べて分かったこと、考えたこと、感じたことを地域、他の学年、他の学校に発信し、「つながり」を広げるための「伝える力」の充実が必要である。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・それぞれの学年で、「住みよい町づくり」をテーマにESDを実践することができた。どの学年も白川の財産を見つけ、白川のよさを発見していた。これまでの積み上げから地域の方も子どもたちの学習に積極的に協力して下さった。
- ・全校の取組で「年賀状」を見守り隊の方へ書いた。いつもお世話になっている方へ気持ちを入れて書くことができ、見守り隊の方も年賀状をととても喜ばれ、つながりをより深めることができた。

○課題

- ・地域・他校への発信の仕方の工夫。
- ・学年間の縦のつながりの見直し。